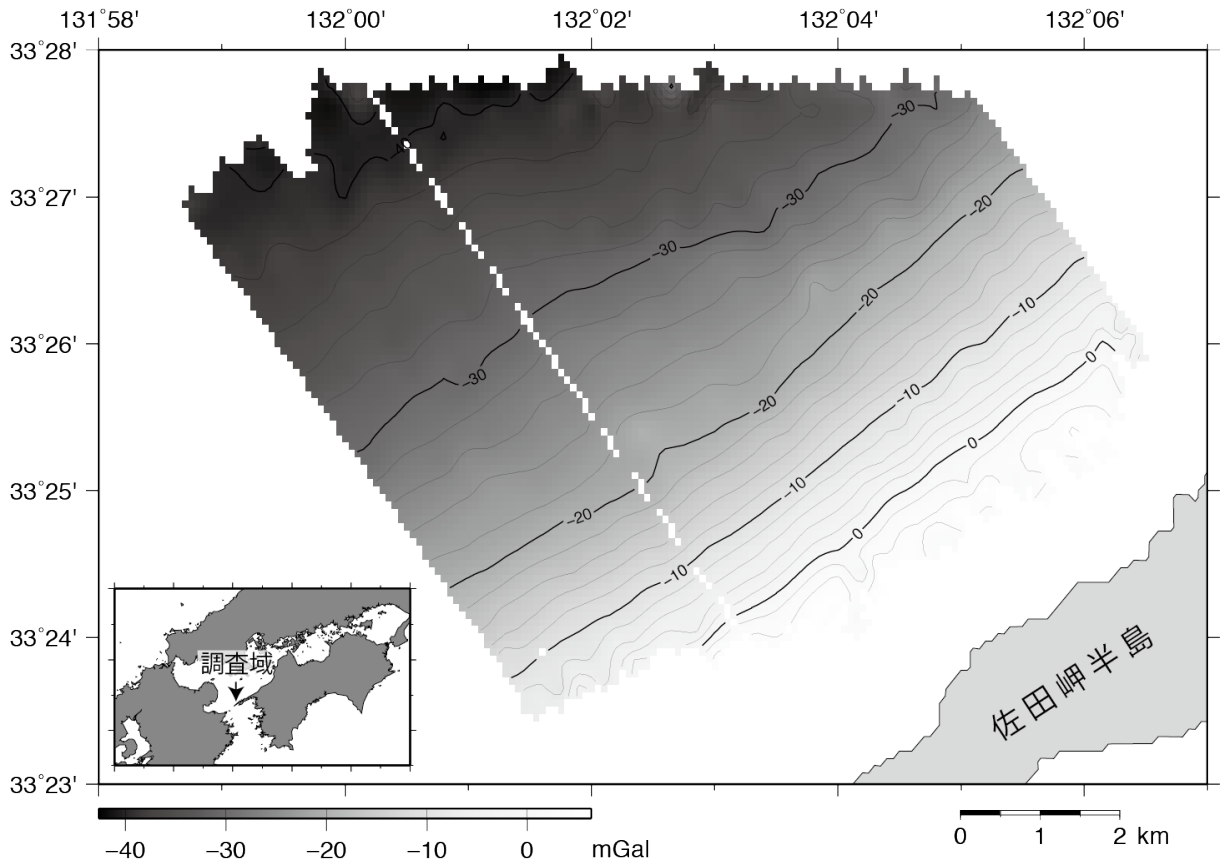


佐田岬半島沖における海上重力調査

○富士原敏也・金松敏也・笠谷貴史（海洋研究開発機構）

新青丸 KS-16-E01 航海の 2016 年 6 月 29 日から 6 月 30 日の間、愛媛県佐田岬半島先端沖において、海底地形（金松他 2017 年ブルーアースシンポジウム）、サブボトムプロファイラと共に、海上重力調査が行われた。調査主測線は海岸線に直交する北西～南東方向で、測線間隔は約 280 m、船速は海底地形調査時に約 8 kt、サブボトムプロファイラ調査時は約 4.5 kt であった。新青丸の船上重力計は Micro-g LaCoste Air-Sea Gravity Meter System II (S-177) である。本航海の計測では重力値（counter unit: cu）は 180 秒、エトベス補正値は 60 秒のローパス・フィルター後に時間遅延して出力されている。重力値（cu）には補正係数 0.990822865（2015 年校正値）を掛け、航海前後の JAMSTEC 横須賀着岸時で重力結合し、重力異常の計算には測地基準系 1980 に基づく正規重力式を使用した。調査域内で主測線に斜交する測線とのクロスオーバーエラーの標準偏差は 1.79 mGal であった。ブーゲー重力異常の計算では本航海で調査した海底地形を使用した。本研究によって求められた重力異常は、既存研究とも調和的（小泉他, 1994; 大野他, 1994; 地質調査所, 2000; 名和他, 2008）で、中央構造線に沿った直線的なブーゲー異常の急変帯をはさんで、南東側が高異常、北西側が低異常となっている（図）。



図：ブーゲー重力異常、仮定密度は 2670 kg/m³。等値線間隔は 2 mGal。